

2024年度

《第1回 iP class 選抜入試(東大専科)》

国語

時間50分，100点満点

受験上の注意

1. 解答用紙には、受験番号・氏名を記入してください。
2. 解答は、解答用紙の所定のところに記入してください。
記入方法を誤ると得点になりません。
3. 試験終了の合図とともに、解答用紙・問題用紙とも回収します。

郁文館中学校

一 次の各問に答えなさい。

問一 次の①～⑩の——線部のカタカナを漢字で書き、——線部の漢字の読み方をひらがなで書きなさい。

- ① カキユウの用件と聞いてすぐにかけた。
- ② 代理人にイニンしていることを証明する書類を準備する。
- ③ この土地はかつてヨウサン業が盛んだった。
- ④ 祖母の家にはがきをユウソウする。
- ⑤ 魅力的な提案にシヨクシが動く。
- ⑥ 決勝戦にノゾむにあたって気持ちを引きしめる。
- ⑦ 真っ赤にウレたリンゴを食べる。
- ⑧ 身の程をワキマえなさい。
- ⑨ チームの要として活躍する。
- ⑩ 常夏の島でのんびり暮らす。

問二 次の①～⑤のことわざ・慣用句の空らんにあてはまる語を、次のア～エの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ① ひょうたんから「 」
ア 種 イ 駒 ウ 花 エ 塩
- ② 「 」は寝て待て
ア 家宝 イ 果報 ウ 作法 エ 貴宝
- ③ 「 」に水
ア 鍋ぶた イ まな板 ウ とじ蓋 エ 立て板
- ④ 身から出た「 」
ア 福 イ 心 ウ 錆 エ 禍
- ⑤ 眼光「 」に徹す
ア 紙背 イ 秘密 ウ 中枢 エ 自在

二 次の文章を読んで、後の各問に答えなさい。

一般に、光を薄いガラスの板にあてると、一部は反射して、一部は*1透過する(ほかに吸収される成分もあるが、以下では無視する)。ここでは通常、ビームスプリッター(略称BS)とよばれるものを考える。ガラスの面に45度方向から光をあてると、その半分は反射し、半分は透過するというものである。半透過とかハーフミラーともいわれる(図1)。

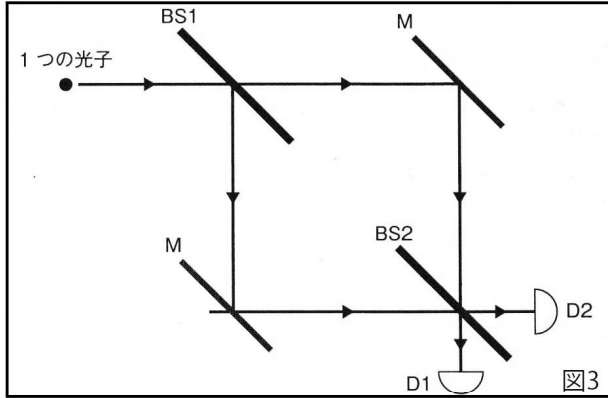
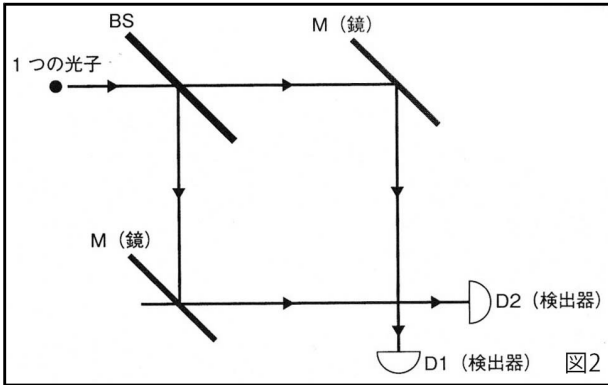
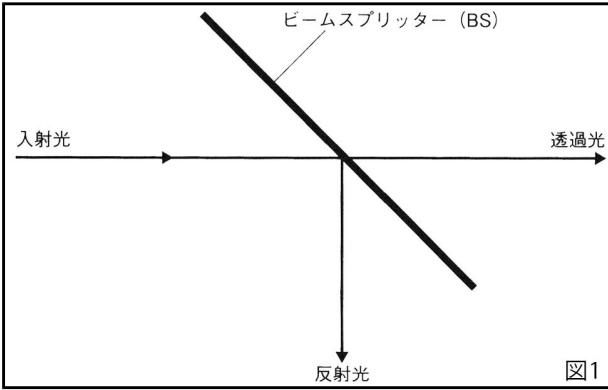
「」 a 「」。多数の*2光子を含む普通の光だったら、反射と透過で光子が半分ずつになると考えればよい。「A」もし、入射する光が光子1つだったらどうだろうか。その光子は「確率50%で透過あるいは反射する」のか。あるいは「透過する状態と反射する状態が、同じ大きさの共存度で共存する」と考えるべきなのか。それとも、コペンハーゲン解釈のように、その光子を何らかの方法で検出するまでは、何がどうなっているのかという議論をすべきではないのだろうか。

このうち最初にあげた、「」確率50%で「」という見方が正しくないことは、次のような実験によってわかる。

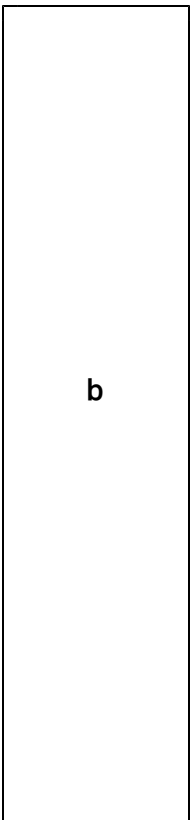
図2を見ていただきたい。左方向から光子が1つだけやってきて、ビームスプリッターにあたる。そこからの透過方向と反射方向それぞれには、光を100%反射する鏡(Mと記している)が置かれている。光子はこの鏡で反射すると、それぞれの経路の前方に置かれた検出器(D1とD2…Dはdetectorの略)に向かい、到達したほうの検出器で検出される。経路は交差しているが、そこでは互いに影響はせず、素通りするものとする。

光子は1つなのだから、どちらか一方だけで検出されるが、ビームスプリッターの性質(反射と透過が等しい)によって、この実験を繰り返せば、半分ずつがそれぞれで検出される。

次に、図3の状況を考えてみよう。右下の二つの経路の交差点に、もう1つビームスプリッター(BS2)を置く。そのほかの配置は、図2と同じである。この設定をマッシュアップエンダー干渉計という。BS2にやってきた光子は、ここで反射するか透過し、やはりいずれかの検出器で検出される。



この設定での光子の経路は、それぞれのBSで反射するか透過するかで、4通りある。



しかし、この装置が正確に正方形に設定されている場合、実験を何回繰り返しても光子はD2でのみ検出され、D1では検出されなかった。

これは、2つの状態の*³干渉の結果として理解できる。D1で検出されなかったということは、経路1の状態と経路2の状態が共存しており、マイナスの干渉を起こしたということである。つまりBS1で透過した状態(経路1)と反射した状態(経路2)は、どちらか一方だけがあるのではなく、共存していなければならない。

経路3と経路4も同様だが、こちらはプラスの干渉を起こしている。どちらがマイナスの干渉になりどちらがプラスの干渉になるかは具体的に計算をしないとわからないが、光子はいずれにしろD1かD2で検出されなければならないのだから、一方でマイナスの干渉ならば他方ではプラスの干渉になる。

いずれにしろビームスプリッターでは、光子は確率的にどちらかに進むのではなく、共存する二つの状態(透過と反射)に分かれるということである。

ここまでも興味深い話だが、さらに不思議な話が続く。

図3でBS1を通った時点では、光子はBS2の存在を「**c**」はずである。だからBS1を通った段階での光子の状態は、BS2の有無には関係ないはずである。「**B**」、その段階では透過と反射という2つの状態が共存しているだろう。

(2)その前提で、BS2のない最初の実験(図2)を見直してみよう。そこでは確率50%で反射か透過が起こるといふ選択肢は排除されていて、両方の状態が共存している。

多世界解釈をとるならば、それぞれの状態で粒子の検出が起こり、D1で検出された世界とD2で検出された世界が共存する。(1)複数の世界の共存ということ自体に問題はな

いとすれば(これで)矛盾のない結論になる。

(和田純夫『量子力学の多世界解釈 なぜあなたは無数に存在するのか』による)

〔注〕*1 透過―通り抜けること。

*2 光子―光を構成する一つ一つの粒子のこと。一般的な光とは光子が集まったものをさす。

*3 干渉―二つの状態が影響し合うこと。二つの状態が重なってより強くなることを「強めあいの干渉」、二つの状態が重なることで弱まること(場合によってはゼロになること)を「弱めあいの干渉」という。

問一 〃線部 X 「具体的」・ Y 「矛盾」の本文中での意味として最も適切なものを、次のア～エからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- X
- ア 論理的で筋が通っている様子
 - イ わかりやすく説得力がある様子
 - ウ 形式的で実をともしなわない様子
 - エ はっきりとした形をそなえている様子

- Y
- ア 細部に誤りがあること
 - イ つじつまを合わせること
 - ウ 物事の道理が一貫していないこと
 - エ 独りよがりです得力がないこと

問二 空らん「A」「B」に当てはまる語として最も適切なものを、次のア～オからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。同じ選択肢せんたくしを繰り返し使うことはありません。

- ア したがって
- イ なぜなら
- ウ つまり
- エ あるいは
- オ しかし

問三 空らん「a」「b」「c」に当てはまる表現として最も適切なものを、次のア～エからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- a ア 「半透鏡」あるいは「ハーフミラー」はどのような役割を果たすのだろうか
- イ このとき光の「半分」を反射するとはどういうことだろうか
- ウ ここで「半分」とはどういう意味だろうか
- エ ところで、光が「反射」し、「透過」するとはどういうことだろうか

- c
- ア 知らない
- イ 認識している
- ウ 排除している
- エ 予期する

問四 空らん

b

 に当てはまるものとして最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア

経路 1 .. B S 1 で透過 ↓ B S 2 で反射 ↓ D 1 で検出
経路 2 .. B S 1 で反射 ↓ B S 2 で透過 ↓ D 1 で検出
経路 3 .. B S 1 で透過 ↓ B S 2 で透過 ↓ D 2 で検出
経路 4 .. B S 1 で反射 ↓ B S 2 で反射 ↓ D 2 で検出

イ

経路 1 .. B S 1 で反射 ↓ B S 2 で反射 ↓ D 1 で検出
経路 2 .. B S 1 で透過 ↓ B S 2 で透過 ↓ D 1 で検出
経路 3 .. B S 1 で反射 ↓ B S 2 で透過 ↓ D 2 で検出
経路 4 .. B S 1 で透過 ↓ B S 2 で反射 ↓ D 2 で検出

ウ

経路 1 .. B S 1 で透過 ↓ B S 2 で透過 ↓ D 1 で検出
経路 2 .. B S 1 で反射 ↓ B S 2 で透過 ↓ D 2 で検出
経路 3 .. B S 1 で反射 ↓ B S 2 で反射 ↓ D 1 で検出
経路 4 .. B S 1 で透過 ↓ B S 2 で反射 ↓ D 2 で検出

エ

経路 1 .. B S 1 で透過 ↓ B S 2 で透過 ↓ D 1 で検出
経路 2 .. B S 1 で反射 ↓ B S 2 で反射 ↓ D 1 で検出
経路 3 .. B S 1 で透過 ↓ B S 2 で反射 ↓ D 2 で検出
経路 4 .. B S 1 で反射 ↓ B S 2 で透過 ↓ D 2 で検出

問五 —— 線部(1)「『確率 50%で……』という見方が正しくないことは、次のような実験によってわかる」について、「『確率 50%で……』という見方が正しい」としたら、どのような実験結果が得られると考えられるか、「図2の実験」または「図3の実験」という言葉を使って四〇字以内で答えなさい。

問六 —— 線部(2)「その前提」とはどのような前提か。「くという前提。」につながるように、本文中の言葉を用いて二十九字で答えなさい。(、や。や「」を使ってはいけません。)

問七 **かおる**さん、**あや**さん、**あたる**さんの三人は本文を読んだ後、その理解を深めるために資料を集め、話し合いをしています。本文の内容をふまえた上で後の資料や対話を読んで、①②の問いに答えなさい。

かおる わたしは、……線部(ア)「コペンハーゲン解釈」、……線部(イ)「複数の世界の共存」について調べました。この文章は、本文の作品の別の部分からの抜粋ぼつぷいです。

量子力学では、粒子のふるまいを「波」によって記述する。しかし波は数学的な表現であり、実体があるとは思えない。そこで解釈問題が生じる。

多世界解釈では、粒子は実在するものと考えられる。だがその状態は1つには決まらず、複数の状態が共存していて、波は、共存する状態の共存度の分布を表すものだ。解釈する。あくまで粒子を「実在」とみる考え方が、多世界解釈の根本にある。

(中略)

電子の位置を確認すると、波としてではなく、どこか1カ所に観測される。これについて、コペンハーゲン解釈では、波は検出された位置に、瞬間的に収縮すると仮定する(波の収縮)。一方、多世界解釈では、粒子と観測者はつねにセットであると考え、波の収縮は考えない。つまり、観測を行うと、ある位置で粒子を観測した観測者、別の位置で粒子を観測した観測者……というように、観測後も複数の(セットとしての)状態が共存すると考えるのだ。

かおる 本文では「光子」という粒子を使った実験をしていましたが、この抜粋では「電子」を例に説明しています。ただ、「粒子」という点では同じなので参考にできると思います。

あや 観測された粒子の「波」をどのように解釈するかで、コペンハーゲン解釈と多世界解釈という異なる解釈の仕方があるようですね。わたしも、……線部(ア)「コペンハーゲン解釈」、……線部(イ)「複数の世界の共存」に関係しそうな図を見つけてきました。

あたる 文章だけだとわからないことも図で見ると少し分かりやすくなりますね。「共存度」というのもわかりにくかったです。あやさんが集めてくれた資料とあやさんのメモのおかげで少し分かりました。

かおる あやさんが集めてくれた資料だと(ア)「コペンハーゲン解釈」に関する資料は「 α 」ですね。

あたる (イ)「複数の世界の共存」というのがよくわからなかったのですが、これは**かおる**さんが探してくれた文章によると、「観測を行うと、ある位置で粒子を観測した観測者、別の位置で粒子を観測した観測者……というように、観測後も複数の(セットとしての)状態が共存する」ということなのです。そうすると、それを示している資料は「 β 」ということになりますね。

あや これは、本文の図2の実験を私がやっていたと考えると、「D1で光子を検出した私のいる世界」と「D2で光子を検出した私のいる世界」がどちらも存在する、ということですよ。D1で光子を検出した世界」の私にとってはそれが全てだ

から、もう一つの世界があるというのには受け入れにくい…、それで「複数の世界の共存」を説明するために図2の実験と図3の実験を考えたということですね。

かおる

すごいですよ。 「複数の世界の共存」というのはSFみたいで信じられないですが、本文の二つの実験を通して考えると、「複数の世界の共存」という考え方も筋が通っているように感じられますからね。

あたる

確かに図2の実験だけだと当たり前のことのように感じられますが、図3の実験を考察した後で図2の実験について考えると、「複数の世界の共存」という考えには説得力があるように思われますね。

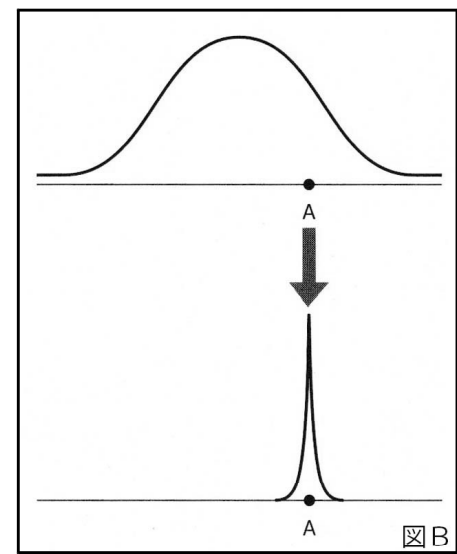
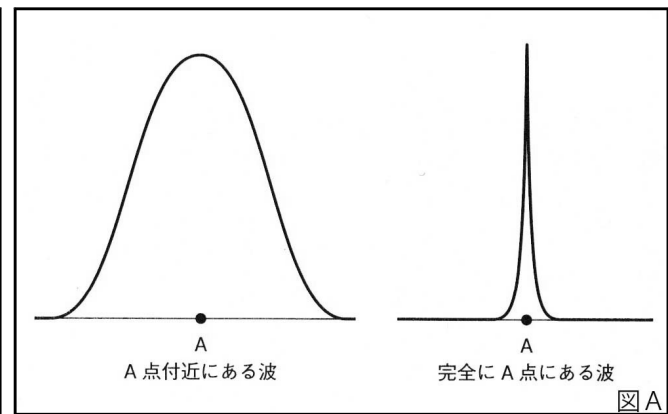
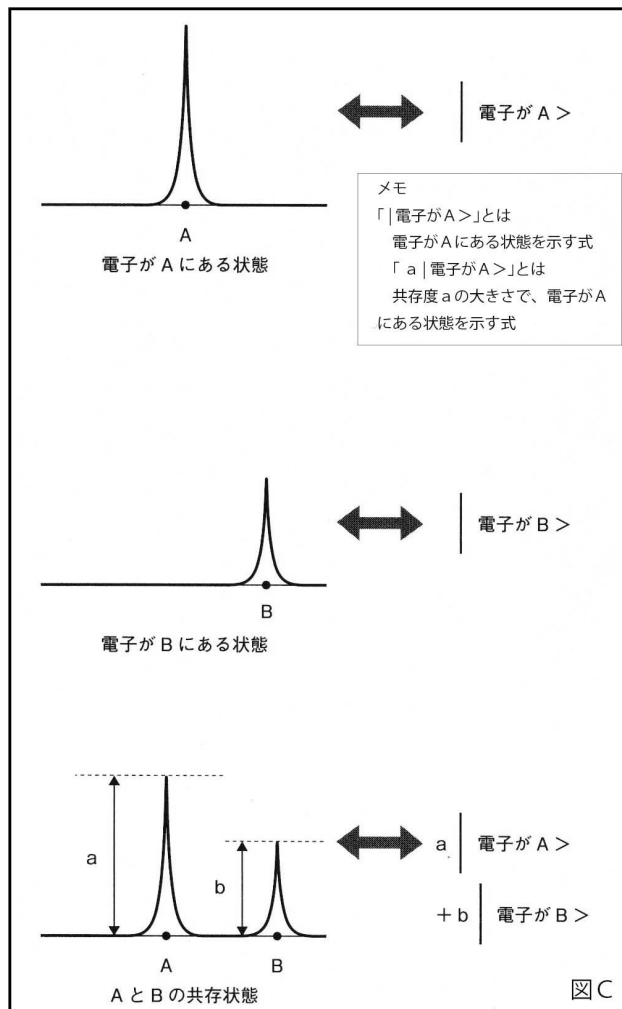
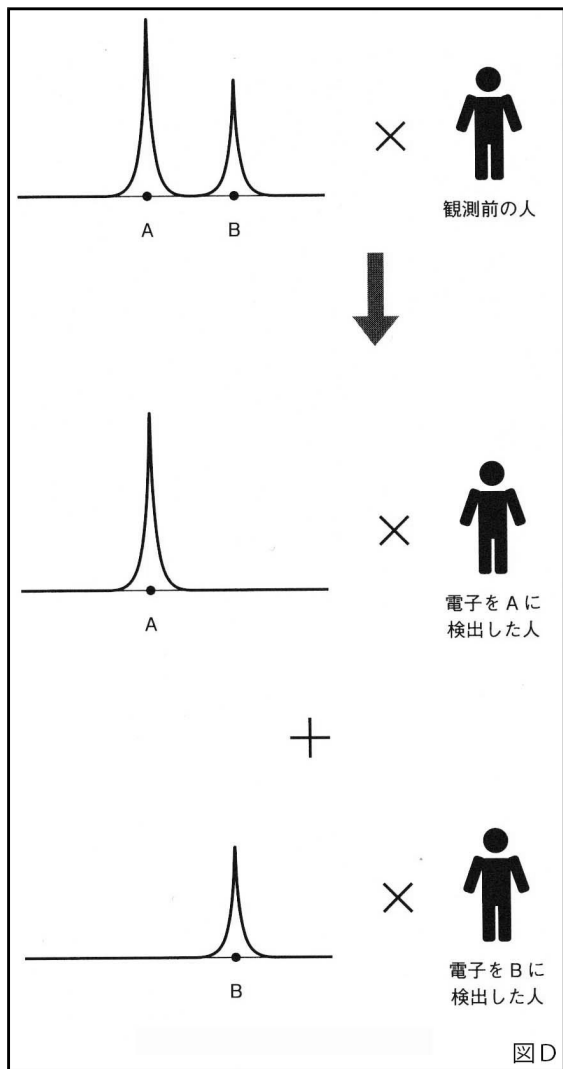
問題①

空らん 「 α 」「 β 」に当てはまる語として最も適切なものを、次のア～エからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ア 図A イ 図B ウ 図C エ 図D

問題②

——線部「図3の実験を考察した後で図2の実験について考えると、『複数の世界の共存』という考えには説得力があるように思われますね」について、「図3の実験」は本文においてどのような役割を果たしているか、一〇〇字以内で答えなさい。



※このページには問題はありません。

三 次の「A」～「C」の文章を読んで、後の各問に答えなさい。

「A」

*1ここに収められた作品を読むと、改めて彼女の観察力と、言葉の感覚の鋭さに驚かされます。目には見えない想像の世界に、独自の視点から光を当て、生き生きとした手触りを与える。あるいは自分の体験を題材にする時は、一旦距離を置き、冷静に細部を見つめ、立体的な像を浮かび上がらせる……。と、こんなふうによくと「a」を褒めて

いるように思われるかもしれませんが、そうではありません。彼女は「I」言葉が人間にとつてどれほど重要な役割を果たすか、ほとんど本能的に理解している人でした。自分の内面を言葉という形あるものに託す、その託し方が率直で、切実なのです。

例えば、『カーチエ』で描かれるのは、アンネとは全く異なる境遇にいる少女であるにもかかわらず、登場人物に対する作者の親愛の情が行間に染み込んでいます。カーチエが誕生日祝いにおかあさんにねだるのは、動物園の入場券だけ。その深い青い目の奥が、カーチエが嘘つきでないことの証明。「
b
」、彼女の本质をつかみ取っています。

いづどんな時もユーモアを忘れないアンネには珍しく、『カトリーン』に描かれる少女は、迷路に迷い込み、行き場を失って立ち往生しています。しかしだからこそ、研ぎ澄まされたナイフにも似た切れ味を持ち、忘れがたい余韻を残します。特に最後の一行は、その響きがいつまでも鼓膜を離れません。おかあさんにプレゼントするはずだった指ぬきは草の中に転がり落ちながらも、なお光っていました。母親との関係はアンネにとつて複雑な問題でした。その複雑さが彼女を成長させたのだという、まさに証拠となる一行です。

旅をするお話が多いのは、やはり隠れ家生活のせいなのだろうか、と思うと「c」
「c」
気持ちになるのですが、ここに描かれているのはどれも心弾む楽しい旅行ばかりです。『パウラの飛行機旅行』は女の子のちょっとした心算が、予想もしない大冒険に発展してゆくスリルがたまりませんし、『小熊のブラリーの冒険』では、世界はどこにあるんだらう？と自分に問いかけながら、勇気を持って見知らぬ場所に足を踏み入れてゆく小熊を、自然と応援したくなります。

最もアンネらしい旅は『映画スターの夢』ではないでしょうか。彼女が王室の人々やハリウッドスターにあこがれ、*2プロマイドを隠れ家の壁一面に貼っていたのは有名なエピソードです。このお話の中で、「わたし」は十七歳。*3アンネが決してなることのできなかつた、十七歳です。

素晴らしいのは、これが単純な空想ではなく、*4ファン・ダーンのおばさんを納得させるための、映画スターになりたくない秘密の理由を綴っている点です。つまり、二重三重にフィクションの仕掛けが施してあるのです。*5キティに宛てた手紙の形式で日記を書いたことでも分かる通り、彼女は想像力を使えば使うほど、言葉がより広い世界へ自分を導いてくれると知っていました。十四歳にして既に作家だった、と言えるでしょう。

ただ、私が『映画スターの夢』で一番好きなのは、結局、撮影に疲れはて、スターになる夢をあつさり捨て去る、というラストです。愛嬌のあるユーモアが存分に発揮され、まるでページの向こうで、アンネがウイंकをしているようです。

もう一つ、どうしても触れておきたいのは、彼女がいかに自分を高めたい、理想の自分でありたい、と強く願っていたかです。その事実は『エファの見た夢』、『妖精』、『リーク』などの作品を読めば明らかでしょう。(E)人はどう生きるべきなのか。この問いに、彼女はまっすぐ立ち向かってゆきます。架空の世界で問いを自由に羽ばたかせます。そして行き詰まった時は、自然に身をゆだね、自然から与えられるもので自分を癒すのです。『花売り娘』の主人公は、自然と神様の前で一人きりでいられる喜びをかみしめます。『ヨーカー』の少女は、次のような見事な一文によって絶望から立ち直ります。

「自然を深くしっかりと見る人は、同じようにして自分を見つめます」

唯一、外を覗くのを許されていた屋根裏部屋の窓辺で、空や*6マロニエの木や枝についた露やカモメの美しさに言葉をなくし、未来への希望をつないでいたアンネの姿が、よみがえってきます。

(小川洋子「解説 日記帳からあふれ出る言葉たち」『アンネの童話』による)

[B]

カトリーンは、思っていることを口に出せず友だちがいない。ある日の午前中、農場の大きな丸石でひとり考えにふけていると、二人の女の子から「ぼんやりカトリーン」という大嫌いなあだ名で呼ばれてからかわれ、深く傷つく。家に戻った彼女は、母親からも理解されず叱られ、午前中は手伝いもしないでどこで何をしていたのかと問われる。母親から「ぐずのぼんやり」と言われ、いやなあだ名を思い出したカトリーンは激しく泣き出す。

「ちゃんと答えな。わたしはおまえがどこにいたのか聞いているの。わからないのかい？ ほんとにいらいらするねえ、ぐずのぼんやりには！」

終わりのひとことが、ぞっとするほどいやな、あなあだ名を思い出させて、カトリーンはわっと泣きだしました。

「どうしたの？ しょうもない泣き虫だね！ どこにいたのか言えないの？ それともたいへんな秘密なのかい？」

その子はどうしても答えられませんでした。はげしく泣くばかりで、話すどころではなかったのです。そしてとつぜん、椅子をひっくりかえすと泣きながら部屋をとび出して屋根裏にかけのぼり、すみに積んであったふくろの山に身を沈めて、胸がはりさけんばかりに泣きました。

(I)おかあさんは肩をすくめるとテーブルを片付けました。おかあさんはわが子のこんなふるまいにはおどろきませんでした。おかしなことはよくあるんですから。あの子はひとりにしておこうーときめました。手のつけられない泣き虫なんだから、十二歳の百姓娘としちやけっこうなものさ！

屋根裏で、カトリーンは気がしずまってくると、いろいろと考えました。いま下に行つて、おかあさんにわたしはドアのそばの丸石にすわって考えていただけなんだと話そう。そして午後のお手伝いをやろう。おかあさんはわたしが怠け者じゃないとわかるわ。どう

してずっと石にすわっていたのかと聞いたら、考えなくちゃならない大事なことがあったと言おう。それから夕方の卵の配達をして、おかあさんにきれいな銀色に光る指ぬきを買おう。村に行つて買うお金ならじゅうぶん持っているもの。

そうしたら、おかあさんはわたしがぐずのぼんやりではないってわかる。ああ、いやらしいあだ名！　ここで女の子は考えました。*7指ぬきを買つてお金が残ったら、キャンディをひとふくろ買つて学校に行くとき女の子たちにくぼろう。そうすれば、わたしを好きになって遊ぼうっていうわ。わたしがみんなと同じように遊べるってわかれば、もうだれもいやな呼びかたはしない。カトリーンって呼ぶわ。

女の子はそつと下におりました。が、廊下でおかあさんに会うと話す勇気が消えて、いそいでいつもの仕事の窓ふきをはじめました。

もうひとつの仕事、卵をバスケットに入れてくばりに出かけたとき、太陽は沈みかけていました。三十分ほど歩いて最初の家になると、入り口にお皿を持った女の人が立っていて、「今日は十個ちょうだい」とやさしく言いました。

女の子は卵を十個かぞえて渡すと、さよならをしてつぎの家へ行きました。

四十五分でバスケットがからになると、カトリーンは小さい雑貨店にはいりました。そこできれいな指ぬきとキャンディをひとふくろ買つてバスケットに入れて、道をひきかえしました。家まであと半分というとき、朝カトリーンをからかったあの女の子たち二人がやってきました。カトリーンはかくれたいのを我慢して、ドキドキしながら歩きつづけました。

「見て！　ぼんやりカトリーンがくるよ！」

カトリーンはちよつとひるみましたが、バスケットからキャンディのふくろを出してていねいにその子たちに渡しました。二人はふくろをひたたくつて逃げ、一人はべろを出してアカンベエをしました。

寂しくて悲しくて、カトリーンは道ばたの草むらにすわりこむなり、泣いて泣いて泣きました。涙が涸れるまで泣くと、バスケットを持って真つ暗になった道をのろのろと家に向かいました。②草のあいだで指ぬきが光っていました。

(アンネ・フランク 中川李枝子(訳)「カトリーン」『アンネの童話』による)

[C]

妖精のエレンは、両親から遺産を受け継ぎ、お金の使い方について考える。その富を他人の幸せのために使うことを決意したエレンは、バスケットにお金を入れて出かけ、最初の訪問先として木こりの夫を亡くしたおばあさんを選ぶ。妖精や小人からの贈りものは断つてはいけないため、おばあさんはエレンから贈られたお金を受け取って感謝を表し、エレンはおばあさんからの見返りを求めず、おばあさんの喜びを見て満足しておばあさんの家を出る。

エレンはさよならをすると、十分でつぎの家に来ました。どんな人がいるのか知りませんが、ここではお金の問題ではないことがエレン

ンにわかりました。不自由していないのに不幸な家でした。そこのおかみさんはエレンを親切に迎え入れましたが、うれしそうではなく、目はうつろで悲しげでした。ここにすこしいてみようかとエレンはきめました。

「たぶん、わたしは③べつのやりかたで、この人を助けられるんじゃないかしら？」と考えて、小さい妖精がクッションにすわると、おかみさんは聞かれないのに自分のなやみを話しました。

乱暴な夫のこと、いたづらな子どもたちのこと、そのほか不幸のかぎりについて話しました。エレンはどこどこに質問をはさみながら聞いているうちに、おかみさんの悲しみがわかってきました。

おかみさんの話が終ると、エレンが話しました。

「わたしには経験がないので、どうしてあげたらいいかわからないわ。でも、わたしがひとりぼっちで寂しいときどうするか、教えてあげましょう。

お天気の良い朝、散歩するの。森とおって野原まで行って、*8ヒースのあいだを歩いたらどこかにすわる。そしてそのまま、なにもしないで青い空と木だけを眺めるの。すると心がだんだんおだやかになってきて、どんなことでも、それほど絶望的なものはないってわかるのよ―ほんのすこしでもよくなるんだって」

「さあね」とおかみさんは言いました。「その方法も、どうせわたしがいつか飲んだ薬みたいなものでしょう」

「とにかく、やってみるのよ」と妖精はすすめました。「4自然のなかにいると心配ごとは消えるわ。はじめは心が静かになって、それから喜びでいっぱいになって、神様はわたしをお見捨てにならないって感じるの」

「あなたのお気に召すことなら」とおかみさんは言いました。「わたしもやってみましょう」

「すてき。来週また寄るわね」

こうしてエレンは家から家へ、人々を励まし慰めてまわりました。長い一日が終るとバスケットはからっぽ、心は満たされていきました。(あ)

あの日からエレンの巡回^{じゅんかい}はつづきました。黄色い花模様のワンピース、髪を大きいリボンで結び、バスケットを腕にかかえたのが訪問のいでたちでした。

なやみを持った金持ちのおかみさんは幸福を感じるようになりました。エレンにはわかっていました。自分のやりかたはいつもうまくいくのです。(い)

エレンはたくさんさんの友だちを持ちました―妖精や小人の仲間ではなく人間や子どもの友だちがいっぱいできました。子どもたちはエレンに何でも話しました。おかげでエレンは人の心を見ぬく力や、どんな場合でも上手に慰める力をも身につけました。(う)

でもエレンのお金は心細くなりました。計算違いをしていたのです。一年過ぎるとエレンの生活するぶんしか残りませんでした。(え)

そのことがエレンを悲しませたり、エレンに贈りものをやめさせることになったと思うでしょう。でもそれは大間違い。エレンはお金ではなく、よい助言と愛と、心のいたみなおす言葉を人々に与えつづけてきました。エレンはひとりぼっちでも人生を美しくできるし、貧しくても豊かさを分け与えることができると学びました。(お)

エレンがたいそう年をとって死んだとき、その国はかつてなかったほどの悲しみにつつ

まれました。しかしエレンの魂たましいは消え去りませんでした。人々が眠るとエレンは楽しい夢を与えにもどりました。人々はまどろんでいるときでさえも、この特別な妖精からかしい知恵ちえの贈りものをもらったのです。

(アンネ・フランク 中川李枝子なかがわりえこ(訳)「妖精」『アンネの童話』による)

【注】*1 ここ―『アンネの童話』を指す。「A」の文章で述べられる『アンネ

の日記』以外の数々の作品はすべて『アンネの童話』に収められた作品。

*2 ブロマイド―スターや俳優などの肖像写真しょうざう。

*3 アンネが決してなることのできなかった、十七歳―アンネ・フランクは一九四五年、ベルゲン―ベルゼン強制収容所で十五歳の時に亡くなった。ドイツ系ユダヤ人であったアンネは、迫害から逃れるため一九四二年から密告により連行されるまでの約二年間を隠れ家で過ごし、『アンネの日記』や『アンネの童話』として収められている短編小説・エッセイを執筆した。

*4 ファン・ダーンのおばさん―アンネ一家とともに隠れ家生活をしていた。

*5 キティ―『アンネの日記』は架空の友人キティに宛てた手紙の形で綴られている。

*6 マロニエ―落葉高木の名称。

*7 指ぬき―裁縫道具さいほうの一種で、指にはめて使う。

*8 ヒース―植物の名称。

問一 空らん「a」も「c」に当てはまる語として最も適切なものを、次のア～エからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

「a」

ア 技術的なこと イ 感覚的なこと
ウ 精神的なこと エ 才能的なこと

「b」

ア カーチェの何気ない日常場面に対して、鋭い感性を働かせ本質を見抜くようにして
イ カーチェがひた隠しにしてきた、誰にも見せたことがない心の裏側を見透みすかすようにして
ウ カーチェ自身でさえ知らないような心の奥底にずぶりと手を差し込み、本心を引っ張り出すようにして

エ 他の誰も触れたことのないカーチェの心の泉から、澄んだ水をそっとすくい上げるようにして

「c」

ア 心の浮き立つ イ 切ない ウ 絶望的な エ 爽快そうかくな

問二 文章「C」からは次の一文が抜け落ちている。本文中の(あ)(お)のうち、どこに入れるのが最も適切か、記号で答えなさい。

着るものを買うよりもずっとましなお金の使いかたをエレンは知ったのです。

問三 —— 線部(1)「おかあさんは肩をすくめるとテーブルを片付けました」というときの「おかあさん」の気持ちを説明したものとして最も適切なものを、次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 大泣きして部屋を飛び出していくカトリーンの思いもよらない様子にあっけにとられつつも、カトリーンの相手をしていては家事が進まないため、淡々と仕事をこなそうと思いつつ直す気持ち。

イ 激しく泣いて会話ができないまま屋根裏にかけのぼった後も泣き続けるカトリーンの態度を見て、いつものことながら困ったことだと思いつつも、年ごろの娘であれば仕方ない反応だと諦める^{あきら}気持ち。

ウ 泣いてばかりで会話が成り立たないカトリーンを見て年齢にふさわしくない態度だとは思いつつも、カトリーンがおかしな行動をするのは珍しいことではないため、かまっていられないとあきれられる気持ち。

エ 話の途中で部屋を飛び出し屋根裏にかけこむカトリーンの幼稚な行動に困惑しつつも、よくあることだと気を取り直し、今はそっとしておいてやろうと優しく見守る気持ち。

問四 —— 線部(2)「草のあいだで指ぬきが光っていました」は、文章「A」と合わせて考えたときどのようなことを表していると考えられるか、その説明として最も適切なものを、次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 関係のよくない母親に贈りものをしようと思うほどに成長したカトリーンの前向きな気持ちが、母親のかたくなな心を解きほぐすということ。

イ ささいな行き違いから理解し合えずにいるカトリーンと母親の関係が改善する明るい未来が、まもなくやってくるということ。

ウ 周囲の心ない仕打ちによってカトリーンの思いは踏みにじられたとしても、母を思うカトリーンの気持ちが失われることはないということ。

エ カトリーンが母親との間に困難を抱えながらも、その難しい問題に向き合うことによって、将来人間として成長するということ。

問五 —— 線部(3)「べつのやりかた」とはどのようなやりかたか、「くを与える」というやり方」につながるように本文中から二十六字で抜き出し、最初と最後の五字をそれぞれ答えなさい。

問六 ——線部(4)「自然のなかにいると心配ごとは消えるわ。はじめは心が静かになって、それから喜びでいっぱいになって、神様はわたしをお見捨てにならないって感じるの」について、このように感じられるのはどうしてだと考えられるか、文章「A」を参考にして六〇字以内で答えなさい。ただし、解答に「神」「神様」といった表現を含まないこと。

問七 〜〜線部(I)「言葉が人間にとってどれほど重要な役割を果たすか」について、「言葉が果たす人間にとっての重要な役割」とはどのような役割か、二十五字以内で答えなさい。

問八 〜〜線部(II)「人はどう生きるべきなのか」について、「アンネ・フランク」の考える理想の人生とはどのような人生であると考えられるか、本文の内容をふまえ五〇字以内で答えなさい。

問九 本文の表現や構成の説明として適切なものを、次のア〜カから二つ選び、記号で答えなさい。

ア 「A」の文章の筆者は、『アンネの童話』に見られる「アンネ・フランク」の優れた作家性について解説した上で、同作に隠された自叙伝的性質を根拠を挙げながら詳細に説明している。

イ 「A」の文章では、『アンネの童話』の作品を個別に解説することに加え、『アンネの童話』以外の「アンネ・フランク」作品も参照して説明することで、奥行きのある解説がなされている。

ウ 「B」の文章では、「カトリーン」以外の登場人物の言葉に対してのみ「」を使って会話文として表現することによって、カトリーンが心を閉ざしていることを印象づけている。

エ 「B」の文章では、「カトリーン」と「おかあさん」の内面を交互に表現することによって、心の奥深くで互いを思いつつも素直になれずにいる、母娘の心のすれ違いが巧みに描かれている。

オ 「C」の文章では、前半部分で「エレン」と「おかみさん」のやりとりを具体的に描くことによって、詳細には描かれていない後半部分でのエレンの行動がイメージできるようにしている。

カ 「C」の文章では、「つぎ」「はいつて」「いたみ」といった簡単な言葉をあえてひらがなにする一方で、「小人」「魂」「知恵」といった難しい言葉を漢字で表現することで、あべこべなファンタジー世界を象徴的にあらわしている。

問九

問八

問七

問六

問四

問一



問七

問六

問五

問三

問一



問二

問一



問九	問八	問七	問六	問四	問五	a
					問二	b
問三	c					
	問三	問二				
問三		問三				

問七	②
	①
問七	α
	β

問六	問五	問三	問一	a	X
				c	Y
問四	問二	問二	問二	A	
				B	

という前提。

問二	①	⑥	①
問二	②	⑦	②
問二	③	⑧	③
問二	④	⑨	④
問二	⑤	⑩	⑤

.....

.....

.....

番受 号験	2024年度 中学校
氏名	